

COMMUNICATION LETTER

# 博物館だより

2018.3 第 23 号  
新潟市北区郷土博物館

〒950-3322  
新潟市北区嘉山3452番地  
TEL 025-386-1081  
FAX 025-388-6290  
museum.n@city.niigata.lg.jp



出品作品介绍

## 高松次郎「波の柱」

1974年、アルミニウム、マルチプルed.47/95、90.5×26.4×26.6cm、1981年収蔵  
©The Estate of Jiro Takamatsu, Courtesy of Yumiko Chiba Associates.

東京藝術大学を卒業した1958年から、本格的に発表活動を開始した高松次郎(1936-1998、東京生まれ)は、赤瀬川原平、中西夏之と結成したハイレッド・センターの活動をはじめ、私たちの常識や固定観念に揺さぶりをかける‘反芸術的’な表現により、1960年代以降の代表的な美術家として、国際的に脚光を浴びました。

本来水面の高低運動である波の形を、垂直に立てたような「波の柱」は、見る人に新鮮な驚きを与えます。高松は、1963年頃から、実体のない‘影’だけを描いた絵画を制作していますが、この作品では、水面に映って揺らめく四角柱のゆがんだ像(影)を、立体作品(実在物)として提示しています。‘影’の絵画と同様に、現実の自然界に‘虚像’を出現させた高松の目的は、そうすることで、逆説的に実体

の‘不在’を私たちに意識させることにありました。

しかしながら、高松の仕掛けはそれにとどまりません。うねりながら上昇するかのようなエネルギーをはらむこの造形を、私たちは一方向から見ただけで、全体像を捉えたつもりになってしまいがちです。しかし、作品の周囲をまわってみると、波の形が変化するように、8つの異なる形が次々に現れます。周到に計画されたこの作品はまた、私たちの‘思いこみ’への挑戦なのです。

1980年代から高松次郎は、観念芸術的な表現としての‘影’と決別し、自分自身の影、つまり‘根源なるもの’の不在をつきとめようと、求心的な絵画探求を続けました。

(神田直子)

「所蔵作品公開」  
美術のなかの自然展

6月17日まで開催しています！